

# 彼岸花

— 残していきたい 身近な自然環境 —

- 1 学年 第6学年〔中期〕  
 2 主題名 身近な自然を守る〔3－(2)〕  
 3 ねらい 身近な自然が失われてしまうことに対するぼくの気持ちを考えることを通して、自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしようとする心情を育てる。  
 4 資料名 「彼岸花」  
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童（生徒）の反応	指導上の留意点
導入	1 彼岸花について知っていることを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤い色の花を咲かせる。</li> <li>田のあぜに咲いている。</li> <li>道ばたでよく見かける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物や写真を提示し、知っていることを発表し合い、資料への興味づけとする。</li> </ul>
展開	2 資料「彼岸花」を聞いて話し合う。 ○ 本当かなと思いつながら、父の話聞いたぼくは、どんなことを考えたでしょう。 ○ かれてしまった葉のあとを見ながら、ぼくはどんなことを考えたでしょう。 ○ 彼岸に満開の花を咲かせた彼岸花を見たぼくは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ 彼岸花が咲いていた場所に道路がつくられ始めたのを見た時、ぼくはどんな気持ちだったでしょう。 3 自分たちの生活を振り返って話し合う。 ○ 自然って不思議だなと思ったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>不思議な花だな。</li> <li>少しくらい時期がずれることもあるだろう。</li> <li>来年も見に来てみよう。</li> <li>かれてしまったのかな。</li> <li>咲くのか見たかったな。</li> <li>雨も降らなかったし、今年は仕方がないな。</li> <li>かれたように見えたのに、彼岸には咲くのか。</li> <li>自然というのはすごいものだな。</li> <li>もう彼岸花を見るのができないのか。</li> <li>便利になるけど、自然を守ることも大切なのではないだろうか。</li> <li>種子の中には発芽するための養分が作られている。</li> <li>チングルマの茎にはたくさん年輪がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料は4場面に分けて提示する。</li> <li>父の話への疑問や見てみたいと考えるぼくの気持ちをとらえさせる。</li> <li>今年は難しいのではないかと考えながらも、期待していたぼくの気持ちをとらえさせる。</li> <li>自然の偉大さに感動するぼくの気持ちをとらえさせる。</li> <li>ワークシートを活用し、自然のすばらしさが感じられる場所が失われるさみしさとともに、人間と自然との共存の在り方を考えさせる。</li> <li>教科で学習したことを振り返らせたり、興味をもつ児童の知識を引き出したりすることにより、自然の偉大さを共有させる。</li> </ul>
終末	4 日本のすばらしい自然風景を見る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>効果音楽を活用して、スライドを見せることで、価値を印象付ける。</li> </ul>

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

古来人間は自然の恵みに感謝し、自然との調和を図りながら暮らしてきた。自然に親しみ、動植物が自然の中でたくましく生きてきた知恵や巧みさに学び、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育ててきたのである。

動植物は自然環境の中で生きており、それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間も地球に住む生物の一員であり、環境との関わりを抜きにしては生きていけない存在である。

ところが、科学技術の進歩等に伴う物の豊かさ、便利さは、人間が本来もっていた感性や資質を弱くしてしまっているとも言われる。自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境の悪化が懸念されている現在、特に身に付けなければならないものである。

そこで、人間の力が及ばない自然の偉大さを理解し、自然に学ぶ態度を身に付ける必要がある。そして、自然環境と人間との関わりから、人間も自然の中で生かされていることを考え、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする心情を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 活用の時期

資料は、実際に彼岸花を見ることが出来る9月下旬に活用することが望まれる。

#### イ 資料の提示

身近な生活の中での自然のすばらしさや偉大さを感じさせるために、実物を見せたり、地域で撮った写真を活用したりすることも考えられる。また、場面ごとの気持ちや考えをしっかりととらえさせたり、深めさせたりするために、分割提示する方法も考えられる。

#### ウ 各教科等との関連

5学年理科「植物の発芽と成長」「花から実へ」、5年国語「森林のおくりもの」等と関連をもたせて指導することにより道徳的価値の定着がより図られると考える。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

主題に対する興味や関心を高めるために、実物や身近な地域の写真等を活用したい。

#### イ 展開（前段）の工夫

中心発問は、人間と自然との共存の在り方を考える場面におきたいが、基本発問で自然のすばらしさ、偉大さをしっかりとらえさせておくことが大切であると考えられる。中心発問では、十分に考えを深めさせるためにワークシートを活用したい。

#### ウ 展開（後段）の工夫

5学年理科「植物の発芽と成長」「花から実へ」で学習したことを振り返らせたり、自然の不思議さや偉大さに興味をもつ児童の活躍の場を設ける等により、学んだ価値を広げたり、共有させたりしていきたい。

#### エ 終末の工夫

価値を印象づけるために、日本の原風景をスライドで見せ、自然のすばらしさを実感させたい。その際、効果音楽を活用することなども考えられる。

また、「心のノート」P63への記入も促しておきたい。

(波多見小学校 小松和親)